

防災教育

猪苗代町立吾妻小学校

ホームページ掲載資料

実践① 火山噴火による恵み：フィールドワーク

- ◎ 自然環境のすばらしさと自然災害への備えの必要性について、講話を聞いて理解を深め、フィールドワークを通して実感できる機会を設定した。

【4年 総合的な学習の時間「猪苗代湖にそそぐ川」】

- 磐梯山の噴火に伴う山体崩壊によりできた堰止湖である檜原湖、小野川湖、秋元湖、長瀬川の上流の様子、猪苗代湖にそそぐまでの流れを観察し、火山から流れる川の水質や雄大な自然のすばらしさを実感することができた。



小野川湖の場所の確認



小野川不動滝



上流の水質検査



檜原湖



長瀬川下流の観察



猪苗代湖での水遊び



学校に戻ってからの振り返り

- 安達太良山から流れる高森川、酸川でのフィールドワークを通して、2つの川の水質や水生生物の違いを理解することができた。



水生生物調査



川遊び

【5年 総合的な学習の時間「磐梯山 天鏡台・五色沼」】

「磐梯山ジオパーク学習」 講師：磐梯山ジオパーク専門員・磐梯山ジオパークガイド

〔5月〕地域の自然環境とその恵み、歴史、昔話等（講話）

- * 「磐梯山は火山だね。噴火したら大変な災害が起きるかもしれないね。でも、宝の山って言われてるよ。どうしてだろう？」
- * 温泉、スキー場、湖沼群などの美しい風景は、火山がもたらしてくれたすばらしい宝物（自然の恵み）であることを確認するとともに、火山の噴火やそれに伴って起きる地震への対応を知っていることが大切であることを学ぶことができた。
- * 磐梯山は信仰の山。民話「足長手長」



〔6月〕磐梯山噴火による火山災害の危険性と防災（フィールドワーク）

- * 磐梯山は、約4万年前と西暦1888年の少なくとも二度、大規模な山体崩壊・岩なだれを起こし、流れ山地形をつくり湖沼群を生むなど周囲に大きな影響を与えたことを高台にある天鏡台から見て確認することができた。
- * 平成24年1月に、磐梯町・北塩原村・猪苗代町から発行された、「磐梯山火山防災マップ」で、降灰後の土石流や融雪火山泥流が流下する範囲を調べさせ、どのような行動をしなければならないかを子どもたちに考えさせた。



【6年 総合的な学習の時間「沼尻軽便鉄道」】

「磐梯山の緑の再生に挑んだ人」「火山の恵み 沼尻軽便鉄道」

〔9月〕磐梯山の噴火と緑の再生・安達太良山の噴火/火山の恵み、産業の発展と沼尻軽便鉄道の歴史 講師：猪苗代町社会教育指導員

〔9月〕磐梯山緑再生の父「遠藤現夢」の墓を尋ねて 講師：磐梯山ジオパークガイド

〔9月〕緑の村軽便鉄道資料館見学 講師：猪苗代町社会教育委員

- * 1888年の磐梯山噴火の後、緑の再生に尽力した人々について知るとともに、学区東側にある安達太良山が1900年に噴火し、多くの犠牲者を出したことを知る。また、安達太良山の火山の恵みの一つに「硫黄」があったことを知り、その運搬に「沼尻軽便鉄道」が活躍し、地域の産業発展に寄与したことを学習した。

- * 火山がもたらしてくれた恵みには、産業や交通機関の発達もあることに気付くことができた。



- * 磐梯山の噴火の後、緑の再生に力を尽くした「遠藤現夢」のお墓を尋ねた。



- * 緑の村に保存されている、軽便鉄道の車輛の中で当時の鉄道利用の様子や、学区内の人々の生活の様子について詳しい話を聞かせていただいた。

実践② 火山噴火の避難方法 「火山噴火の際の避難の在り方」

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

平成28年11月25日 第5校時
場所5年教室 授業者

1 単元名 磐梯山の噴火と恵み

2 単元設定の理由

○ 教材観

本校は、猪苗代町の北東部に位置し、西には磐梯山、東には吾妻山・安達太良山と、3つの火山に囲まれた場所にある。

磐梯山は、1888年の噴火により岩なだれが起き、岩や土砂が流れてきて「流れ山地形」を作り出した。また、噴火による被害者が477人と、明治以降では日本最大の火山災害とも言われてきた。2000年には、火山性微動などが観測され臨時火山情報が発表されたが噴火までには至らなかった。しかし、前回の噴火から130年以上が経過しているため、噴火への対策をとることはとても重要なことであるとされている。

一方、安達太良山についても、1900年に噴火があり、火口付近では72人が被害を受けた。火口は西側に開いており、次に噴火が起きれば、西側の猪苗代町側に火山泥流などが流れてくることが予想されている。今年10月には、安達太良山火山防災マップが改定された。

しかし、それらの山々がもたらすのは被害ばかりではなく、私達の生活に多くの恵みも与えてくれている。噴火により、美しい自然が生まれたこと、火山による温泉・食物の成長、スキーなどの観光施設、自然エネルギーによる地熱発電など、様々な恩恵も受けていることについても子供達に実感させたい。

そこで、本単元では、「火山の災害と恵み」に焦点をあて、今までの歴史や周辺地域の地形（地震・火山の情報など）から、この猪苗代町に住むことで得る恵みについて考えさせながら、災害に関する正しい知識を身に付け、自らの命を守るために主体的に考え判断し行動できることをねらっていききたい。

○ 児童観

本学級は、男子6名・女子3名計9名である。学校の中でも一番少ない人数の高学年ではあるが人数の多い6年生を頼っている様子も見受けられる。児童会や縦割りの活動を見ていても、自分から進んで活動できる児童は少なく、「自分で考え行動する力」が身に付いているとは言えない。来年は自分達が最高学年であることについて意識させながら、6年生の役割について学習しているところでもある。

4年生までは、ほとんどの児童が身近にある磐梯山・安達太良山についての知識もなく興味関心も薄かった。ましてや噴火などの災害に対する備えについては、それぞれの家庭でも特に考えられていない状況である。5年生1学期から少しずつ学習を進めて

きたことで、磐梯山について知りたい、噴火が起きたらどうすればよいのだろうといった学びへの関心が高まってきている。

そこで、磐梯山・安達太良山はもちろん、自分が住む地域のよさに触れることによって、この地域を愛する心を育てていきたい。また、噴火などの自然災害に向け、児童自らが自分で考え判断し行動できる力・自分の命は自分で守る力を身に付けさせていきたい。また、学習したことを伝えながら家庭との連携も図り、家族全員の意識も高めていきたい。

○ 指導観

磐梯山周辺の3町村は、2011年に「磐梯山ジオパーク」に認定された。ジオパークとは、「大地の公園」を意味し、地球を学び丸ごと楽しむことをねらいとしている。磐梯山の今までの歴史から何が起こり何をもたらされたかについて学ぶのに大変適した学習ができる。そこで、初めに磐梯山ジオパーク学習を行い実際に見学学習をするなどして、噴火後の自然の変化や磐梯山の恵みについてとらえさせていきたい。

次に、火山についての専門家を講師に招き、講話やフィールドワーク・実験を通して噴火についての知識を持たせ、実際に避難する際の自分の行動の在り方について考えさせていきたい。その際に、地域の地形図や「磐梯山火山防災マップ」「安達太良山火山防災マップ」「青少年赤十字防災教育プログラム」なども活用し、自分で考え判断し行動する方法について、より大事なこととしておさえさせていきたい。また、学習した内容を校内や家庭に発信する機会も作っていきたい。

3 単元の概要

(1) 単元の目標

地域の自然環境のすばらしさを知り、災害に関する正しい知識を身に付け、自らの命を守るために主体的に考え判断し行動できるようにするとともに、仲間や地域のために進んで行動できるようにする。

(2) 単元で育てようとする資質や能力及び評価規準

観点	育てようとする資質や能力	単元で学ぶ内容	評価規準
主体的・創造的・協同的な態度	ア 課題に対して、自らの行為について意思決定しようとする。 イ 学習から、自分自身の考えや行動を振り返り、改善・行動しようとする。	① 磐梯山・安達太良山の歴史や復興に関わった先人達の苦勞について ②火山災害(噴火)の状況の把握と火山がもたらす恵みについて	○ 火山災害の状況を理解し、自分の身を守る判断力を身に付けようとしている。(ア-③) ○ 将来を見据えて防災・減災について考え、実践しようとしている。(イ-③)

課題設定・問題解決の能力	ウ 課題解決を目指して、事象を比較したり関連づけたりして考えることができる。	③自然災害（特に火山災害）時に備える防災・減災の在り方	○ 火山災害時の防災・減災の在り方について考えようとしている。 (ウー②)
情報収集の能力	エ 地域を知り、災害から自分の命を守るために、必要な情報を収集しようとする。		○ 磐梯山ジオパークの学習から、自分達の生活している地域に関心を持つことができる。 (エー①)
コミュニケーション・表現力	オ 友達や家族・地域と関わりながら、共に防災について考え取り組もうとする。 カ 自分達が調べてきた内容をまとめ、相手に分かりやすく伝えることができる。		○ 火山の噴火と恵みについて分かりやすく伝えることができる。 (カー②) ○ 友達と協同して課題を解決しようとしている。 (オー③) ○ 防災についての学習をきっかけに、家族で災害発生時の約束などを決めようとしている。 (オー③)

4 単元の指導計画（総時数 33 時間 本時 26 / 33 時）

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自然環境のすばらしさと自然災害【12時間】</div>	他教科・行事等との関連
<p>1 磐梯山について調べよう。【6時間】</p> <p>(1) 磐梯山の歴史・起こり・恵みについて</p> <p>① 磐梯山について知っていることを話し合い、これから調べてみたい内容を決める。</p> <p>② 各自調べ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 磐梯山の起こり ・ 火山について ・ 火山の恵み など <p>③ ゲストティーチャー（磐梯山ジオパークガイド）から話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ジオパークについて <p>④ フィールドワーク（磐梯山ジオパークガイド）を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 磐梯山噴火により生まれた自然環境 	<p><国語科> 書き手の意図を考えて (防災についての新聞作り)</p>

2 地域の自然災害について調べよう。【6時間】

(1) 磐梯山・安達太良山の噴火や被害、地域の再生について

- ① 磐梯山噴火の被災状況の概要をつかむ。
- ② ゲストティーチャー（町社会教育委員、猪苗代町地方史研究会所属）から話を聞く。
 - ・噴火の状況、噴火による被害
- ③ フィールドワーク（磐梯山ジオパークガイド）を実施する。
 - ・磐梯山噴火による被災
 - ・磐梯山復興に関わった先人達（遠藤現夢、赤十字医師団）

自然災害に対する対応 【21時間】

1 自然災害を知ろう。【5時間】

(1) 土砂災害について

- フィールドワーク（喜多方市建設事務所職員）を実施する。
 - ・学校近くの土砂災害防止擁壁工事現場

(2) 火山噴火について

- ゲストティーチャー（磐梯山噴火記念館副館長）から話を聞く。
 - ・火山の仕組みと災害
 - ・磐梯山と安達太良山の噴火
 - ・噴火から命を守るために

2 磐梯山の噴火と恵みについて発表しよう。（吾妻祭り）【5時間】

- 磐梯山の噴火災害・復興に関わった先人達・恵み

3 自分たちの命を守るためにできることを考えよう。【8時間】

(1) 自分たちが生活している町・地区について

- ① 地形図から吾妻地区の地形を知る。
- ② 大原地区付近のフィールドワークを行い、吾妻地区の地形を知る。

(2) 自分が生活している地区での避難の在り方について

- ① 昨年作成した学校付近の防災マップから、普段から気をつけることについて考える。
- ② 地形図上で、自分の家や避難場所を確認する。
- ③ **吾妻地区の地形図と磐梯山・安達太良山防災マップを使って災害図上訓練（DIG訓練）を行い、避難の在り方について考える。（本時）**
- ④ 地区の防災マップを作る。

<行事>

避難訓練

（授業中・休み時間・清掃時間）

<理科>

流れる水のはたらき

<行事>

吾妻祭り

引き渡し・引き取り訓練

<家庭で>

家族防災会議

<p>4 防災・減災について発表しよう。(授業参観)【3時間】</p> <p>○ 防災マップを使って、自分の命を守るための防災・減災の在り方について発表する。</p>	
---	--

5 本時のねらい

吾妻地区の地形図と磐梯山・安達太良山防災マップを使って災害図上訓練 (DIG 訓練) を行い、避難の在り方について考えることができるようにする。

6 準備物

ワークシート 各家庭の防災家族会議資料 磐梯山火山防災マップ
 安達太良山火山防災マップ 猪苗代町地形図 映像機器 コンピューター
 DVD (青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」映像教材

7 学習過程

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点・手立て 評価
導入	<p>1 今までの学習から、火山災害の特徴を確認する。</p> <p>・火山灰、噴石、土石流、火砕流 火山ガス、溶岩流、岩なだれ</p> <p>2 噴火が起きた時にどうしたらよいか考え、本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>火山災害から身を守るにはどうすればよいのだろうか。</p> </div>	5	<p>○ 磐梯山ジオパークでの学習、噴火記念館副館長さんの話や自分達が調べたことなどを想起させ、本時につながる内容について確認させる。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>○ 家族防災会議で話し合ってきた「噴火した時危ない場所はどこですか？」の結果にも触れ、どんな話し合いだったか確かめさせる。 (家、酸川、ほぼ全域、土石流、外)</p>
展開	<p>3 噴火を想定し、DIG訓練をして避難の仕方を話し合う。</p> <p>A グループ～磐梯山噴火想定</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>・1888年の爆発と同程度</p> <p>・小磐梯で水蒸気爆発</p> <p>・土石流と火山泥流</p> </div>	27	<p>○ 3D化した猪苗代地区の航空写真を示し、地形も見ながら学習させる。</p> <p>○ 児童の家の場所や避難所となる施設を示した地形図を用意しておき、自分のことを考えるという実感を持たせる。</p> <p>○ 「家の人と一緒にいる日中」という状況想定で考えさせる。</p>

B グループ～安達太良山噴火想定

- ・雪の多い時期
- ・沼の平火口でマグマ噴火
- ・大規模な火山泥流



(2) 話し合ったことを発表する。



(3) 他にもいろいろな想定が考えられることを知る。



- 地形図の上に火山泥流（防災マップのもの）を書き加えた透明シートを重ね、児童が生活している地区ごと（樋ノ口・小田・酸川野・木地小屋・沼尻駅前）に何分以内にどこまで避難しなければならないのか、他にどんなことに気をつければよいかについて話し合わせる。



- 発表は、家族防災会議の資料（事前に避難について家族で話し合ってきたもの）を振り返りながら聞かせる。



- 噴火は連動すること（2つの火山の噴火）をおさえ、災害にはいろいろな想定があり、その時の状況において対応することの必要性をとらえさせる。

- 7 本時のまとめをする。
 (1) 「火山災害」のDVDを視聴する。



- (2) 本時の学習について、振り返りをする。
 (3) 次時への見通しを持つ。
 ・防災マップをよりわかりやすいものにして、家の人にも紹介すること。

ウー②

火山災害時の防災・減災の在り方について考えようとしている。(話し合い)

- 青少年赤十字防災教育プログラムの映像教材 A - 13 (約4分) を視聴させ、情報を確認することの大切さを確認する。
- これから災害が起きた時にどう対応できそうか、家族防災会議の内容の見直しができたか、について振り返りをさせ、これからの防災意識を高める。
- 本時の学習から、これからも自分の命を守るために考えていくこと(正しい知識)が大切であることを確認させる。



8 板書計画

自分達の命を守るために

火山災害から身を守るにはどうすればよいのだろう。

想定
 ・家の人と一緒にいる日中に火山災害が起きた

いろいろな状況が考えられる



- その時の状況に応じて対応する。
- 情報をしっかり確認する。
- ◎ これからも考えていくこと～正しい知識～
 (自分で・家族と)



実践② 火山噴火の避難方法 「学校周辺の防災マップづくり」

- 1 教科等名 総合的な学習の時間 単元名 「防災マップをつくろう」
- 2 学 年 第5学年
- 3 単元を通しての思い

5年生は総合的な学習の時間に、磐梯山ジオパークについての学習に取り組んでいる。1学期には、磐梯山がもたらしてくれた「恵み」や「磐梯山の噴火と地形の変化」について学習をしてきた。2学期は、火山の恵みを踏まえた上で、磐梯山や安達太良山の噴火の影響など防災についての学習を中心に進めている。本単元では始めに、学区内で見える安達太良山の噴火の形跡を確認するとともに、学校のすぐそばの土砂災害警戒区域に指定されている山で災害防止の工事現場を見学した。これによって、自分たちの身の回りには災害の危険性が存在することを意識できるようにした。そこで災害時に自分自身で危険を回避しようとする意識を高めるために、学校周辺の危険箇所を取材するフィールドワークを行った。

防災マップづくりでは、事前にフィールドワークで集めてきた情報をもとに、災害によってどのような危険があるのかをグループで考えさせた。その際に、災害ごとに付箋紙の色を変えることで視覚的にとらえることができるようにした。また、写真と危険箇所をリンクさせて、なぜそこが危険なのか話し合い、行動の仕方を共有することで、災害時に一人一人が自分で考え、安全に行動できるように防災意識を高めてきた。

- 4 本単元での外部の指導者・協力者
磐梯山噴火記念館副館長 磐梯山ジオパーク専門員

5 単元構想と実際

1 学校周辺のフィールドワーク（11月4日）

- ・災害時危険箇所の情報収集をする。



2 フィールドワークで得た情報の整理（11月13日）

- ・グループで取材した情報を災害別に分類し、なぜ危険なのかをワークシートにまとめる。



3 防災マップづくり（11月16日）

- ・災害時に身を守る行動の仕方を考える。

4 学習のまとめとしての「防災呼びかけ会」（12月4日：授業参観時）

6 授業の展開（「防災マップづくり」）〔11月16日（月）〕

学 習 活 動 ・ 内 容	主 な 発 問 と 指 導 の 実 際
<p>1 前時の学習を振り返り、学習のめあてをつかむ。</p>	<p>◇災害別に分類し、整理したワークシートをもとにして、学校周辺の防災マップをつくりましょう。</p>
<p>学校周辺の防災マップをつくろう</p>	<p>地震の時の危険箇所は「ピンクの付箋紙」、大雨の時の危険箇所は「水色の付箋紙」、その他大雪や強風の時のものは「黄緑」に書くようにしよう。</p>
	<p>複数の災害時に共通な危険箇所の標示</p>
<p>2 防災マップを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 班ごとに危険箇所や注意事項を付箋紙に書き、白地図に貼る。 ○ 地震・水害・風雪など災害の種類によって付箋紙を色分けし、わかりやすく表現する。 	
<p>3 全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 班ごとに自分たちで見つけた危険箇所を発表し合う。 ○ 事前に危険箇所を記録した写真を提示しながら危険な理由を説明する。 	<p>◇各班で見つけた危険箇所について、「どのような災害の時」「どのような理由で危険なのか」を発表してみよう。</p>
	
<p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のまとめとして「防災呼びかけ会」（授業参観時）をすることを聞く。 	<p>◇自分が危険な目に遭わないようにするためにはどうすればいいかな。</p> <p>◇自分たちで調べた災害時に危険だと思われる箇所についておうちの人に知らせる「防災呼びかけ会」をしよう。</p>

実践② 火山噴火の避難方法

磐梯山噴火記念館の出前授業「火山災害について」

1 授業テーマ 地震と噴火、土砂災害について理解し防災について考える授業

2 教科等名 総合的な学習の時間 「地震・噴火、土砂災害と私たち」

3 学 年 第5・6学年

4 ね ら い

- 地震と噴火、土砂災害の仕組みなどについて理解し、それらが起こった場合、どのように自分の身を守るか、どのように避難するかを考え、安全な避難行動が取れるようにする。

5 外部の指導者・協力者

磐梯山噴火記念館副館長 磐梯山ジオパーク専門員 喜多方建設事務所専門員

6 展 開

学 習 活 動 ・ 内 容	主 な 発 問 等	外部講師・資料等
<p>1 地域の特徴を話し合い、学習のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火山に囲まれた地域 ・学校のすぐそばに急な斜面の山  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>地震や噴火、土砂災害の仕組みを知り、身を守る方法を考えよう。</p> </div>	<p>◇自分たちの住む地域には、どのような特色がありますか。</p> <p>○地形・自然環境に目を向けさせる。</p>	
<p>2 「地震」について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震の多い国 ・地震が起こる仕組み ・震度とマグニチュード 	<p>◇地震は、どのようなところで多く起きると思いますか。</p> <p>○地震と火山の関係に焦点化していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・磐梯山噴火記念館副館長 (パワーポイント)
<p>3 「火山の恵み」について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温泉、景色、ミネラルウォーター など 	<p>◇火山がもたらしてくれる「恵み」って何だろう。</p>	
<p>4 噴火の仕組みと災害について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・噴火の仕組み <p>(実験1 マグマの質と火山の形)</p>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <p>粘りけのあるマグマだと、火山は高く盛り上がるんだ。</p> </div>	<p>◇火山の噴火で起きる災害にはどのようなものがあるでしょう。</p> <p>○「火山灰」「噴石」</p> <p>○「融雪泥流」「火砕流」</p>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <p>火山灰はとがった粒なんだ！吸い込んだり目に入ったりしたら・・・</p> </div>	<p>(実験1 マグマの質と火山の形)</p> <p>(実験2 噴煙と火砕流実験)</p>

<p>(実験2 噴煙と火砕流実験)</p> 		
<p>5 噴火と土砂災害について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土石流やがけ崩れの仕組み (実験3 土石流の仕組み) (実験4 がけ崩れの仕組み) 	<p>◇大雨や大きな地震などで起きる災害にはどのような物があるでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・喜多方建設事務所 (実験3 土石流の仕組み) (実験4 がけ崩れの仕組み)
<p>6 磐梯山と安達太良山について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磐梯山、安達太良山の噴火の歴史 (実験5 噴火に伴う泥流実験)   	<p>安達太良山が冬に噴火すると、融雪泥流が学区を飲み込んでしまうかもしれないんだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・磐梯山噴火記念館副館長 (パワーポイント) (実験5 噴火に伴う泥流実験)
<p>7 地震や噴火、土砂災害から命を守るためにどのようにすればよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> *火山の特徴を知る。 *避難の仕方を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◎ 自分たちが住む大地を学ぶことが、自分の命を守ることになる。</p> </div>	<p>◇地震や噴火、土砂災害から命を守るためにどのようにすればよいかを今日学習したことを振り返って考えてみよう。</p>	

実践③ 家に一人でいるときの避難の仕方

第2学年 学級活動(2) 指導案

平成28年1月25日 第5校時
場所 2年教室 授業者

1. 題材名「地しんがおきたら」 (カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成)

2. 児童の実態と題材設定の理由

大地震発生時に学校や家庭など様々な場所で予想される危険から自分の身を守るためには、どのような行動をとればよいのか一人一人が判断し、どのような場面でも安全に避難できるようにすることが大切である。学校では毎年2回地震を想定した避難訓練(縦割り班清掃時や休み時間)を実施し、教師が近くにいない設定で取り組んできており、自分で考えて避難しようとする態度が少しずつ身に付いてきている。

本題材では、児童が家に一人でいるときに地震が発生した際に、自分の身を守る方法について話し合い、実際に安全に行動することができるようにしたいと考えた。

子どもたちは東日本大震災が発生した時2歳であったため、実際の地震の恐ろしさは実感できていない。そこで、映像資料等を活用し地震の様子を視覚的に理解させるとともに、「本当にこんなことになったら大変だ。」「自分で自分の命を守らなくちゃ。」という必要感をもって、身を守る方法について話し合い、具体的なめあてをもって実際に安全な行動ができるようにしていきたい。

3. 第1学年及び第2学年の評価規準

観点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活への 知識・理解
評価規準	自己の身の回りの問題に関心を持ち、進んで日常生活や学習に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするために日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	学級生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。

4. 事前の指導

- ① 資料DVD(青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」映像教材A-0、A-1)を活用し、「防災」について備えることの意義や「災害」にはいろいろなものがあり、地震はその中の一つであることを確認する。
- ② 前回までの避難訓練の振り返りカードや「家族防災会議カード」により、児童の実態を把握する。
- ③ 家で日中よくいる部屋にある物や、地震が起きたときに危険な物を学習カードに記入させておく。

5. 本時のねらい

- 地震が起きたときには、「危険な物から離れる」ことや「身を守る姿勢をとる」ことなどの身を守る方法を理解し、自分の命を自分で守るために行動することができる。

6. 本時の展開

段階	学習活動	時間	○ 指導上の留意点	※ 評価
導入	1. 「緊急地震速報」について知る。	2	○ 「緊急地震速報」がどのようなときに鳴るのか理解させる。	
つかむ	2. 緊急地震速報が鳴った時の行動について考える。	3	○ DVD(A-4)「きんきゅうじしんそくほうでみをまもろう」を見せ、ワークシートで緊急地震速報が鳴った時の行動について考えさせる。	

家で地しんがおきたとき、みをまもる方ほうを考えよう

さぐる

3. 地震が起きたときの危険性やすばやく身を守る行動をとることの大切さを理解する。



4. 家の中にある危険な物や、身を守る方法について考え、話し合う。



見つける

終末

きめる

5. 家でよくいる部屋での身を守る方法を決める。



6. 互いに自分の身を守る方法を発表する。

10 ○ DVD(A-3)「じしんからみをまもろう」(一部)を見て、地震の特徴や気をつける物について考えさせる。

【地震の特徴】

・地震はある日突然やってくる。

【地震の時に気をつけなければいけないもの】

- ・たおれてくるもの
- ・おちてくるもの
- ・うごいてくるもの

25 ○ 室内の写真を見たり、自分の学習カード(部屋の様子をかいたもの)に印をつけたりしながら、家にある「たおれてくるもの」「おちてくるもの」「うごいてくるもの」を具体的に考えることができるようにする。

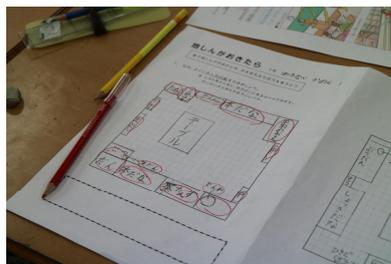
○ ワークシートを活用し、あわてて外に出ることや棚などを押さえることの危険性と、テーブルの下に入り、テーブルのあしを握ることの必要性について考えさせる。



○ 普段から危険な物を予想して、身を守る方法を考えておくことが大切であることを押さえ、自分の家の「あの部屋だったらこうやって身を守ろう。」と具体的にイメージできるようにする。

3 ○ 自分の身を守るために、より具体的な自己決定ができるように助言する。

※ 地震が起きた時、どのように安全な行動をとるか具体的な方法を考え、決めることができたか。(思考・判断・実践、学習カード)



2 ○ 自己決定したことを称賛しつつ、家庭での避難訓練について知らせ、実践への意欲を高める。

7 板書計画

地震がおきたら
 家で地震がおきたとき、みを守る方ほうを考えよう
 あぶないもの ……たおれてくるもの・おちてくるもの・うごいてくるもの

テレビ、本、しょっき、
 たな、たんす、いす、
 れいぞうこ、電子レンジ、
 すいはんき、ポット、
 ワゴン

はなれる・みを守るしせい

- しょっきだながたおれるとあぶないから、こたつの中にもぐる。
- まどからはなれて、ざぶとんをかぶって丸くなる。
- たんすからはなれて、テーブルの下に入り、あしをつかむ。

よそうして考える

8. 事後指導

- ① 家庭との連携を図り、各家庭で避難訓練を実際に行い、自分で決めた方法で避難することができたか振り返る。
- ② 地震のニュースがあった時や避難訓練などの際に、本時の学習を振り返る。

地震がおきたら 2年 1イ

家で地震がおきたとき、みを守る方ほうを考えよう

1. 日中、よくいるくわの紙をかきましよう。
 ※ 上から見たとき、何とどこにあるのかをかきましよう。
 だいたいの大きさや形がいいです。

お家の人といっしょに、家で避難訓練をしましよう。
 自分のおまをき守って行動できましよう。

- 1 「きんきゅう地震そくほう」を聞いて、すばやく行動できましようか。
 よくできま できま すこしできま できなかつた
- 2 きけんな物からはなれましよう。(おちてくる物) (たおれてくる物) (動いてくる物)
 よくできま できま すこしできま できなかつた
- 3 自分の身をを守るしせいができましようか。
 よくできま できま すこしできま できなかつた
- 4 地震がおきたとき慌てつることや反省をかきましよう。
 他人がてまからこころをせんが
 できまといけましよう。
 ねて いまのいふやがまてましよう

お家の力から
 ① よく自分の身を守る行動がてましていること
 ② だれか一人に自分の身をを守るまはこまをましよう

地震がおきたとき、みを守る方ほうを考えよう
 あぶないもの ……たおれてくるもの・おちてくるもの・うごいてくるもの

実践④ 児童が主体的に考えて行動する避難訓練

1 学校行事「避難訓練」

2 活動のねらい

- (1) 教科や総合的な学習の時間等で学習したことを生かして、地震等の災害発生時、自分の命を守るために安全に気を付けて行動しようとする態度を育てる。
- (2) 避難訓練の意義を理解し、自分で考えて進んで行動しようとする態度を育てる。

3 構 想

学校行事においては、児童の課題意識を高め、主体的に避難訓練に参加できるように展開することが大切である。そして、教科・総合的な学習の時間での学びを生かして避難訓練に取り組むことで児童の安全に対する意識を一層高め、自分たちの命を自分たちの力で守って生活していこうとする態度を育てることができると考える。

(1) 目指す児童像

地域の自然環境の特性を理解し、災害についての正しい知識を身に付け、自ら命を守るために、主体的に考え判断し行動しようとする児童

(2) 具現化に向けた手立て

① 教科等との関連を図った指導

- ・ 予想される地域の自然災害の理解
- ・ 災害に関する知識を身に付ける
- ・ 年間4回の関連性、継続性・発展性

② 主体的に避難訓練に取り組む指導

- ・ 避難訓練の多様な場の設定
- ・ 主体的に行動する場の設定
- ・ 振り返り活動の設定

4 評価の観点と評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
安全な行動に関心をもち、意欲的に避難訓練に取り組もうとしている。	学校や学年の一員としての自覚をもち、安全な避難の仕方について考え、判断し、実践している。	避難訓練の意義や安全な生活の仕方について理解している。

5 指導の実際（第5学年の学習を中心に）

【手立て①】教科・総合的な学習の時間等との関連を図った指導

災害に際して、自分の命を守るために自分で考え判断し行動できるようにするためには、自然災害や防災についての理解を深める教科や総合的な学習の時間等と実際に行動の仕方を学ぶ学校行事「避難訓練」との関連を図った指導に努めることが大切である。そのためには、子どもたち一人一人が防災についての地域の実態をしっかりと理解し、学習したことを意識して避難訓練に主体的に取り組めるように活動を設定したい。

① 学級活動(2)「安全な生活」⇨ 第1回避難訓練「火災対応」

学校や家庭生活において、火災や地震などの災害が発生したときに自分の身を守るためにはどのように行動すべきか考えた。火災の際の行動の仕方、地震が発生したときの危険性について理解し、災害時に自分が一番意識して行動するめあてを自己決定した。

② 総合的な学習の時間「磐梯山ジオパーク学習」(5年)⇨ 第2回避難訓練「地震対応」

磐梯山ジオパーク専門員との連携を図った学習を展開する。

火山である磐梯山により、温泉、スキー場、湖沼群などの美しい風景など自然の恵みがもたらされていることを理解するとともに、火山の噴火やそれに伴って起きる地震への対応を知ることの大切さを学ぶことができた。



③ 総合的な学習の時間「火山災害と防災(フィールドワーク)」(5年)⇨ 第3回避難訓練

「噴火による地震対応」



磐梯山の噴火により山体崩壊・岩なだれを起こし、湖沼群を形成するなど地形に大きな影響を与えたことを見学し、実感した。

磐梯山火山防災マップで土石流や融雪火山泥流の流れを調べ、どのように行動すべきか考えた。

④ 総合的な学習の時間「避難マップをつくろう」(5年)⇨ 第3回避難訓練「噴火と地震」

学校周辺の危険箇所を調べるフィールドワークを行い、調べたことを災害別に分類しながら避難マップにまとめた。そして、なぜその場所が危険なのか、自分の命を守るためにどのように行動すればよいのか、話し合った。災害時、学校周辺や自分が住んでいる場所で、一人一人が安全に行動しようという防災意識を高めることができた。

さらに全校集会で5年生が避難マップにまとめたことを全校生に発表し、他の学年の災害に対する意識を高めることにつながった。



⑤ 理科「天気の変化」(5年)⇨ 第4回避難訓練「豪雪被害対応」

台風の進路による天気変化や台風と降雨との関係についての考えた。

また、地域の特質として、大雨による土砂災害の危険性や大雪の場合の危険性について理解を深めた。自分たちの身の回りに災害の危険性が存在することを意識し、災害に対する備えの大切さを認識することができた。



【手立て②】主体的に避難訓練に取り組む指導

(1) 多様な想定の設定

どのような状況でも児童が自分で考えて行動できるように、年間4回の避難訓練の関連性・継続性・発展性を考慮して多様な想定を設定して実施する。

① 第1回避難訓練…火災発生の想定。授業時間の避難。教師の指示に従って一旦に避難し、避難経路の確認など基本的事項の徹底を図る。

- ② 第2回避難訓練…地震発生の想定。縦割り清掃時間の避難。縦割り班ごとに避難する。教師は近くにいない設定とし、自分たちで放送を聞いて判断し縦割り班ごとに協力して避難する。教師は、直接指示をせず、児童の行動を見守り必要に応じて指導する。
- ③ 第3回避難訓練…火山の噴火の影響で地震発生の想定。休み時間様々な場所で自由に過ごしている時間の避難。児童一人一人が自分で判断して助け合いながら避難する。
- ④ 第4回避難訓練…冬季豪雪による被害で火災が発生した想定。教師の指示に従って一斉に避難し、冬季の基本的事項や積雪時の避難経路を確認する。

(2) 主体的に行動する場の設定

児童が避難訓練に主体的に取り組むように、一人一人が自分のめあてをもって活動できるようにする。また、教師の指示で避難するのではなく児童が自ら考えて行動する場を設定し、その行動に対して指導する避難訓練を実施することで、児童が自分で命を守る意識を高めたい。

① 第1回避難訓練「火災対応」

事前指導として、避難訓練のねらいや火災発生時の避難の仕方等について指導するとともに、学級活動(2)で災害発生時の行動について自己決定したことを想起させながら自分のめあてを設定し、避難訓練に対する課題意識を高め、一人一人主体的に行動できるようにした。特に、火災では煙を吸わないようにすることや避難時の「おかしも(おさない・かけない・しゃべらない・もどらない)」等基本的事項について指導した。

避難訓練では、児童は、放送や教師の指示をしっかり聞き、一人一人自分のめあてを意識して、真剣に避難行動をすることができた。避難経路など基本的事項も学校全体で確認することができた。

避難訓練 振り返りカード 4/11 (6)年()	
1 避難訓練の目標	火災が発生したとき、自分の命を守るために安全に避難することができ、おかしも(おさない・かけない・しゃべらない・もどらない)を守ることができた。
2 自分の目標	「おかし」を守って みんなとまとまって逃げやくだんする。
3 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>おさない</u>で、避難できましたか。 できた できなかった ② <u>かけない</u>(校庭は走らない)で、避難できましたか。 できた できなかった ③ <u>しゃべらない</u>で、避難できましたか。 できた できなかった ④ 放送や先生の指示を<u>静かに聞く</u>ことができましたか。 できた できなかった ⑤ 自分の<u>目標</u>を達成できましたか。 できた できなかった
4 避難訓練を振り返って学んだことや反省を書きましょう。(よくできたこと、できなかったこと)	「おかし」や自分の目標を守ってみんなと訓練だけれど、本当におかしな声でしゃべりながら行動することができた。でも、逃げるときはみんなとまとまって逃げやくだんする。

② 第2回避難訓練「地震対応」

事前指導として、磐梯山の噴火についての学習を振り返り、避難訓練の実施前に学級タイムを活用して地震発生時の行動の仕方「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない・飛び出してこない」など安全を確保するために気を付けることについて指導した。今回の想定のように教師が近くにいない場合は、自分たちで考えて清掃班ごとに協力して避難することを確認した。教師は分担して児童の行動を見守り、命にかかわる行動があった場合に指導した。

清掃時に地震発生放送になると、6年生は班員をまとめながら机の下にもぐるように声をかけ、次の放送の指示を聞いて、校庭へ素早く避難することができた。教師の直接の指示がないため、一人一人が自分で考えて行動したり、上級生は下級生の面倒を見て「大丈夫だよ。守ってあげるからついてきて。」と声をかけたりしながら清掃班ごとにまとまって避難できた。

しかし、自分でどのように行動すればよいのか判断できず、立ちすくんでしまって、友達からの声かけによってようやく行動できた児童もいたことがわかり次回の課題を意識させた。



③ 第3回避難訓練「噴火による地震対応」

事前指導として、総合的な学習の時間に火山噴火から地震が発生することや学校周辺の避難マップづくりで考えたことを想起した。また、学級タイムに「休み時間に地震が発生し、各自

の場所から一人一人自分で考えて判断し安全に避難する」という今回の想定や校舎内の危険性について再確認した。

避難訓練においては、一人一人が放送の指示を聞き、人を頼らず自分で考え真剣に行動することができた。近くにいる児童同士まとまったり、上級生が下級生と手をつないで一緒に避難したりしていた。自分で行動するだけでなく、仲間のために進んで行動し共に助け合おうという気持ちが上級生に育ってきている。

④ 第4回避難訓練「冬季火災対応」

事前指導として、理科「天気の変化」で学習した大雪の被害等について振り返り、危険性を確認した。また、冬季は校舎周辺の積雪のため避難経路が変わることについて指導した。

避難訓練では、児童は自分のめあてを意識し、教師の指示をしっかりと聞きながら、真剣に避難し、積雪時の避難経路を確認することができた。

(3) 振り返り活動の設定

避難訓練実施後に振り返りの場を設定し、一人一人の気づきや学び、課題を把握して個に応じた指導に努め、一人一人が避難行動の仕方をしっかり身に付けられるようにしたい。また、全校生での振り返りの場も設定し、全体としての成果や命にかかわる危険なことを確認することで、災害時に互いに声をかけ合い助け合うことのできる態度の形成に努める。

① 第1回避難訓練…各学級で避難行動の実際について振り返ると、ほとんどの児童が「お・か・し・も」を意識し、自分のめあてを達成することができた。避難訓練での学びや気付いたことを振り返り、「訓練でも真剣に取り組めた。いつでもできるようにしたい。」「今度はもっと早く並ぶようにする。」など次回の課題意識をもつことができた。

② 第2回避難訓練…自分で判断して行動したことで、一人一人が具体的に振り返ることができた。「落ちてくるものや倒れてくるものをさけて避難できた。」「一番近くの避難経路から避難できた。」「下級生にやさしく声をかけられた。」などのよい点や「戸棚の近くにもぐってしまった子がいたけど、気が付くことができなかった。」「下級生に机の脚をおさえるように指示できなかった。」「次回は1年生のスピードにあわせて避難する。」など反省点があげられ、次回の課題を明確にすることができた。全体での振り返りとして、話をする児童がいなかったことよきやピアノの下に避難したことの危険性などについて指導した。

③ 第3・4回避難訓練…毎回活動後に振り返ることで「前回よりも素早く机の下にもぐるなど行動できた」「前よりも下級生に声をかけながら、一緒に避難できた」などの自分の努力していることを意識できるようになってきた。しかし、身の回りの様々な危険性についてまだ十分認識できていない児童もあり、児童の実態を踏まえた個別指導に努める必要がある。

6 成果と課題

○ 地域の自然災害の特質についての学習との関連を図りながら、避難訓練を実施したことで、防災に対する意識も高まり、避難訓練にもより真剣に取り組むことができた。

○ 避難訓練の想定や主体的に行動する場の設定を工夫したことにより、一人一人の児童が自分で考えて判断し避難行動しようとする態度が育ってきた。

○ 避難訓練実施後の振り返りを継続して行い、前回の反省等と比べながら行動を振り返り自分の課題を意識して取り組むことができた。教師も個に応じた指導に努めることができた。

● 4回の避難訓練の関連や発展に結びつくように、各学年における教科や総合的な学習の時間との関連を明確にしたり災害の想定などを工夫したりして、さらに指導の充実に努めていきたい。